

平成 30 年度事業報告

(自 平成 30 年 4 月 1 日 至 平成 31 年 3 月 31 日)

公益財団法人内子町国際交流協会

<基本方針>

内子町国際交流協会は、国際的な視野と実践力を備えた人材を育成し、もって活力ある地域社会の形成に寄与することを使命として、20 年以上にわたり活動を続けてきた。今年度も事業の柱である「青少年海外派遣事業」をはじめ、以下に記す事業を効果的に実施する。

I. 交流促進事業

1 意識啓発・情報発信事業

(1) 機関紙「ゆうていあ」の発行

協会が実施する各種交流事業の紹介や活動状況を町民に P R し、国際交流・国際理解に対する認識を高めるための記事を内子町の広報紙「広報うちこ」へ掲載した。

発行時期：毎月 1 回（計 12 回）

規 格：広報うちこ（A4 版）

(2) ウェブサイト運営

インターネットにより、国際交流等に関する情報を収集するとともに、ホームページを通して当協会の活動を広く国内外に発信した。（<http://utia.jp>）

また、SNS サイト Facebook を活用し、イベント参加の呼びかけや活動報告を行った。

(3) 先進地視察研修

持続可能な協会づくりのため、先進的な活動事例を学ぶとともに、各種団体との交流とネットワークの形成を図った。

2 各種講座運営事業

(1) 国際理解講座（一般向け）

夏休み特別企画として、愛媛県国際交流協会のインターン生を講師に迎えて、小学校 1 年生から 6 年生を対象に国際理解講座「ハワイの生活を知ろう！」を開催した。

開催日時：平成 30 年 7 月 23 日（月）

開催場所：六日市自治会館

講 師：ターシャ、カイラ（共にハワイ出身のインターン生）

参加人数：25 名

(2) 外国語講座

ア. 一般の町民を対象に、英語・ドイツ語の 2 言の講座を目的別に毎週開講した。

コース：英会話 3 コース、ドイツ語 2 コース

受講者数：各講座 5 名程度

イ. 小学校低学年（1 年生～3 年生）を対象に、月 1 回「英語であそぼう！」を開講した。

開催回数：計 10 回（休講月：8 月、3 月）

開催場所：町内各自治センター

参加者数：各回 15 名程度

(3) 英語絵本多読プロジェクト

英語絵本を町内中学校の図書室に設置し、生徒たちが気軽に親しめる環境を提供した。ALT により読書指導を行い、多くの英語に触れられる機会をつくっている。

3 交流イベント・体験事業

(1) 国際交流ボランティア活動の推進事業

地域の国際交流の担い手・人材を養成し、活躍の場を広げるための事業を行った。主に以下の事業を実施した。

ア. ホストファミリー養成・登録

海外からの訪問者を受け入れることで異文化理解やホスピタリティーの精神を醸成する。

イ. イベント等ボランティアの登録

町民のボランティアを登録・養成する中で、地域における国際交流に対する意識啓発を図るものである。①翻訳・通訳ボランティア②イベントボランティア③文化ボランティア

ウ. 在住外国人支援のための「日本語広場（日本語講師養成）」

地域在住外国人の支援を目的として、毎週土曜日に日本語講師ボランティアによる日本語広場を開講した。

開催日時：毎週土曜日 10 時～11 時 30 分

開催場所：内子自治センター

対 象：日本語学習を希望する在住外国人（受講者数：約 3 名）

エ. 海外派遣事業 OB 会の運営事業（ビッグハンズ）

青少年海外派遣事業 OB 会への登録、情報交流を通じ、郷土に対する愛着心を醸成し、若きまちづくりの担い手として、共に交流活動に参画することを期待している。

ビッグハンズメンバーを中心に 34 名が笹踊りに参加した。

(2) 「国際交流の集い」事業

大人から子どもまで楽しみながら異文化に触れる機会を提供する目的をもって、以下の事業を実施した。

ア. 内子町子どもフェスティバル出展

プランナーや海外派遣事業 OB 合わせて 14 名で、フェイスペインティングを実施した。

イ. 国際交流イベント開催

国際交流員（CIR）・外国語指導助手（ALT）、ボランティアプランナーの企画により、交流イベントを開催した。

・ドイツフェスタ開催協力

ステージでの出し物、出展ブースへの参加を企画したが、台風の為に中止となった。

・地域のイベントへの参加およびブース出展

「五十崎文化祭」と「小田の郷ふるさと祭り」にブースを出展し、フェイスペイントや活動紹介を行い、協会の周知を図るとともに、町民が気軽に異文化に触れる機会を提供した。

ウ. ALT 交流会主催

普段教育現場を中心に活動している ALT と一般町民が触れ合う場として、様々なイベントに参加し、交流を図った。また ALT が内子町の文化に触れる場を提供した。

- ・ ALT (デリアナ・ダルトン) フェアウェルパーティー

6月29日(金) 内子自治センター 48名参加

- ・ ALT (サマンサ・ジャーナギン) ウェルカムパーティー

8月10日(金) 五十崎自治センター 41名参加

- ・ 第14回内子町駅伝大会参加

外国語指導助手(ALT)と町民有志で「内子町国際交流協会チーム」として駅伝大会に参加し、協会のPRを行うと共に、参加者との交流を図った。

1月20日(日) 選手7名、補欠2名、監督1名

(3) ホームステイ受け入れ事業

ドイツ・ローテンブルク市からの訪問団をはじめとするホームステイ受け入れ要請に対し、ホストファミリーの紹介や交流イベント企画といった事業を行う。

今年度は受け入れなし。

4 翻訳・通訳事業

行政の観光担当課における各国語パンフレット作成や公用文書等の翻訳、姉妹都市交流行事等における通訳等の言語サポートを行った。

5 内子町中学校英語弁論大会実施事業

内子町教育委員会学校教育課と連携し、町内中学生を対象に英語弁論大会を開催し、弁論指導、審査等の協力等を行った。

平成30年度 9月21日(金) 内子座 町内中学生約160名参加

II. 助成事業

1 青少年海外派遣事業

中学・高校生を対象に姉妹都市であるドイツ・ローテンブルク市で研修を行うための費用として、渡航費等経費の1/3以内を助成するとともに、青少年海外派遣事業利子補給金制度も実施した。ローテンブルク市の協力の下、現地では各家庭でホームステイし、ローテンブルク市の町並保存や環境保護、学校訪問や警察署見学、プレッツェル作りなどを体験した。また、第2訪問地であるノルウェーのオスロでは、現地の高校を訪問し、同世代の子供たちとの交流を深めた。

派遣にあたっては、事前研修を実施し、研修効果を高めるよう努めた。

実施期間：11月15日（木）～11月24日（土）（10日間）

派遣先：ドイツ・ローテンブルク市、ノルウェー・オスロ

対象：町内の中高校生10名

2 ローテンブルク市等との文化交流助成事業

ドイツ・ローテンブルク市との姉妹都市盟約締結を機に新設した制度で、工芸や伝統芸能など、内子町の文化の担い手がローテンブルク市等において交流するための費用を助成するものである。

今年度は申請なし。

3 町民の海外研修助成事業

町民が海外で研修活動を行うための費用の一部（1/2を上限とする）を助成する。

今年度は申請なし。

4 町民の国際交流に関する主体的な取り組みに対する助成事業

町内の国際理解や国際交流に関する主体的な取り組みに対し、その活動に要する費用の一部（5万円を上限とする）を助成する。

今年度は申請なし。

Ⅲ. 法人管理

1 寄付金

(1) 寄付の依頼

協会の運営および諸活動に対し、町内各企業、団体および町民に寄付の依頼を行った。

平成30年度 寄付件数：6件 寄附金収入272,000円

(2) 賛助会員制度への加入促進

協会の活動に賛同する個人および団体による賛助会員制度を平成28年度に創設した。パンフレット、広報、ホームページ、Facebook等の活用により、会員拡大に努めた。

平成30年度 賛助会員数：個人81件、法人10件 会費収入284,000円

2 平成 30 年度理事会・評議員会

月日	会議	主な議案	場所
5月14日	第1回理事会	事業報告・決算審議 特定資産（定期預金）の途中解約について 定時評議員会の招集について	内子分庁
6月1日	定時評議員会	事業報告・決算審議 監事・評議員の選任について	内子自治センター
6月20日	第2回理事会	副理事長および専務理事の選定について 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する 規程の一部改正について	書面決議
8月3日	第3回理事会	特定資産（定期預金）の取り崩しについて	内子自治センター
1月22日	第4回理事会	特定資産の売却について	内子自治センター
2月12日	第5回理事会	特定資産の運用対象銘柄の承認について	書面決議
3月14日	第6回理事会	H30年度運用の方針案および計画案について 平成31年度事業計画について 特定資産（定期預金）の取り崩しについて 平成31年度収支予算案について	内子自治センター
3月29日	第7回理事会	専務理事の選定について	書面決議

3. 特定資産運用管理委員会

月日	会議内容	出席者	場所
7月11日	投資信託の運用について	特定資産運用管理委員3名 事務局4名 野村証券担当者	内子自治センター
12月19日	投資信託の売却について	理事長 特定資産運用管理委員4名 事務局4名 野村証券・愛媛銀行・四国アライアンス証券担当者	内子自治センター
2月3日	新規運用銘柄について	理事長 副理事長 特定資産運用管理委員3名 事務局4名	五十崎自治センター

4. 研修・会議等への出席

平成 30 年 12 月 5 日 平成 30 年度第 2 回外国人生活支援ネットワーク会議

5. 職員の状況について

職員 1 名 雇用 平成 31 年 3 月 31 日退職

6. 役員の状況について

①役員（理事・監事） 定数：理事 3 名以上 15 名以内、監事 2 名以内（定款第 20 条）

H31,3 31 現在

役員	氏名	所属団体等
理事長	稲本 隆壽	内子町長
副理事長	藤渕 利通	元内子町教育委員長
副理事長	小野 尚久	(有)協栄調査測量設計事務所代表取締役社長
副理事長	横田 光敏	内子町教育委員
専務理事	山岡 晋	内子町国際交流協会プランナー
理事	下野 安彦	内子町議会議員
理事	一柳 清志	一柳電気水道設備
理事	山村美佐子	内子町国際交流協会プランナー
理事	大野 千景	内子町国際交流協会プランナー
理事	名本 裕子	内子町国際交流協会プランナー
監事	中塚 浩二	愛媛たいき農協内子支所長
監事	永見 雅之	参川郵便局長

② 評議員 定数：3 名以上 25 名以内（定款第 9 条）

H31,3,31 現在

井上 淳一	内子町教育委員会教育長
菊地 幸雄	内子町議会総務文教常任委員長
小泉 明子	内子町図書館長
山崎 文弘	五十崎郵便局長

黒川 定男	伊予銀行内子支店長
正岡 憲吾	愛媛銀行内子支店長
水田 寿	愛媛県立内子高等学校長
山下 博司	愛媛県立小田高等学校長
山崎 浩二	内子町立大瀬中学校長
大森 悟	内子町 PTA 連合会副会長
城戸 博子	青少年海外派遣 OB 保護者
山本 勝美	内子手しごとの会会長
宮岡 淑子	内子婦人会長
山口 佳一	(株)内子フレッシュパークからり部長
城戸 彰	元内子町教育委員
武田 隆幸	内子町国際交流協会設立準備プロジェクトメンバー

平成 30 年度附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書を作成しない。